

安曇野市水道ビジョン

計画期間：平成29年度～令和8年度

令和2年度 事業評価報告書

令和3年9月

安曇野市 上下水道部

安曇野市水道ビジョンの基本目標と基本方針について

厚生労働省では、時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道を理想像として掲げています。

安曇野市の水道も将来像の実現に向けて、様々な課題の解決に取り組むため、その取り組みの目指す方向性を次のように定めています。



いつ飲んでも安全な水道

いつでもどこでも、安全に飲める水道を目指します。



災害に強く、しなやかな水道

自然災害等で被災した場合でも、迅速に復旧できる水道を目指します。



いつまでも地域にあり続ける水道

給水人口や給水量の減少に対しても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。



皆様に信頼され、共につくる水道

多様化するニーズに応え、世代を超えて利用される水道を目指します。

安曇野市水道ビジョンの施策体系について

基本理念

清らかで良質な水をいつまでも
～信頼を未来へつなぐ安曇野の水道～

基本目標	主要施策	実現方策
安全 いつ飲んでも 安全な水道	<ul style="list-style-type: none"> 水源から蛇口までの徹底した水質管理 	<ol style="list-style-type: none"> 1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携 2 水安全計画の策定 3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成 4 水道管内の点検と洗浄 5 濁度計の設置
強靱 災害に強く、 しなやかな 水道	<ul style="list-style-type: none"> 災害に強い施設の整備 バックアップシステムの構築 危機管理体制の充実強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1 指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化 2 非常用電源設備の整備 3 他水源からの配水が可能となる施設整備 4 防災訓練の実施 5 震災等を想定した災害対策マニュアルの作成
持続 いつまでも 地域にあり 続ける水道	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な施設更新と規模の適正化 経営基盤の強化 未普及地域への対応 	<ol style="list-style-type: none"> 1 老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施 2 水源施設の老朽化診断 3 アセットマネジメントの実践 4 施設の統廃合やダウンサイジングの検討 5 人口減少地域における消火施設のあり方の検討 6 水道料金水準の適正化の検討 7 水道への切り替えの推進
信頼 皆様に信頼さ れ、共につく る水道	<ul style="list-style-type: none"> 利用者とのコミュニケーションの充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報公開の充実 2 施設見学会の実施 3 水道利用者のニーズの把握

令和2年度の水道ビジョン進捗状況を

点検・評価しました。

□点検評価基準

昨年同様、以下の基準により点検・評価を行いました。

例：令和2年度末の「濁度計の設置」

- ・20箇所（100%）設置が最終目標値
- ・平成29度～令和2年度末までに5箇所設置（計画当初は5箇所設置済、25%整備）
- ・実績率は10箇所/20箇所で50%（小数点切捨て）
- ・ $50\% \div 55.75\% \times 100 \div 90\%$

評価基準		
達成率	評価	
95%以上	A	目標どおり
95%未満 85%以上	B	目標をやや下回る
85%未満	C	目標を下回る

定量的な評価が難しい項目について

達成率について、定量的な評価が難しい項目は下記一覧表で「空欄（目標値備考欄：定量困難）」となっていますが、以下の要領で評価します。
 「具体的に〇〇に取り組んだ。」 「予定していた事業を完了し、予定どおりの成果が出ている。」場合は「A」
 「〇〇を検討している。」 「取組を開始している。」場合は「B」
 「未着手」の場合は「C」。

(単位：%)

実現方策	年次毎目標値②（水道ビジョン方策数値年度按分）											目標値備考	策定時 数値 a	中間 目標値 b	最終 目標値 c	ビジョン 掲載 ページ	
	20件																
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目							
	H29度	H30度	R元度	R2度	R3度	R4度	R5度	R6度	R7度	R8度							
安全	1	水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携										定量困難				34	
	2	水安全計画の策定	-	50	100	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100		
	3	水質事故発生時の行動マニュアルの作成	-	50	100	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100		
	4	水道管内の点検と洗浄										定量困難					
	5	濁度計の設置	-	35.25	45.5	55.75	66	66	74.5	83	91.5	100	整備率	25	66		100
強靱	1	指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化	-	27.98	33.45	38.93	44.4	49.88	55.36	60.84	66.32	71.8	耐震化率	22.5	44.4	71.8	39
	2	非常用電源設備の整備	-	-	-	-	25	-	43.75	62.5	81.25	100	整備率	25	25	100	
	3	他水源からの配水が可能となる施設整備	-	33.33	66.67	100	-	-	50	100	-	-	整備率	-	-	-	
		(1) 豊科・明科地域整備事業	-	33.33	66.67	100	-	-	-	-	-	-	整備率	-	100	100	
		(2) 穂高豊里整備事業	-	-	-	-	-	-	50	100	-	-	整備率	-	-	100	
4	防災訓練の実施											定量困難					
5	震災等を想定した災害対策マニュアル	-	-	100.00	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100		
持続	1	老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施	78.64	79.38	80.12	80.86	81.6	82.36	83.12	83.88	84.64	85.4	有収率	77.9	81.6	85.4	42
	2	水源施設の老朽化診断（14か所）	21.4	42.8	64.2	78.4	92.6	100	-	-	-	-	調査率	0	92.9	100	
			3/14	3/14	3/14	2/14	2/14	1/14									
	3	アセットマネジメントの実践											定量困難				
	4	施設の統廃合やダウンサイジングの検討	-	-	50	-	75	100	-	-	-	-	進捗率	0	75	100	
		(1) 豊科・明科地域整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	-	-	-	
		(2) 明科潮沢系施設の再構築	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	-	-	-	
5	人口減少地域における消化施設のあり方の検討											定量困難					
6	水道料金水準の適正化の検討											定量困難					
7	水道への切替えの推進					99.6					100	普及率	99.3	99.6	100		
信頼	1	情報公開の充実											定量困難			44	
	2	施設見学会の実施											定量困難				
	3	水道利用者のニーズの把握											定量困難				

安曇野市水道ビジョンの令和2年度施策の点検評価結果

1 令和2年度施策の点検評価結果の概要

実現方策20件のうち来年度以降の施策3件を除く17件について評価した結果、A評価12件、B評価3件、C評価2件となった。C評価の施策の要因のほとんどが未着手によるもので、課題を解消し目標達成を目指す。

2 基本方針別の評価結果と今後の課題・方向性

(1) 安全

- ・徹底した水質検査により安全性を確認することができた。今後も適切な水質管理を行う。
- ・「水安全計画の策定」、「水質事故発生時行動マニュアル」は令和2年度策定。

(2) 強靱

- ・耐震化(主要管路整備)はおおむね順調に進んでいるが、今後は市街地における施工を伴うため、入念な給水ルートの確認が必要である。
- ・豊科・明科地域整備事業は令和2年度に完了。

(3) 持続

- ・施設更新と規模の適正化についてはおおむね順調に進んでいる。
- ・老朽化診断において、今後予定している水源施設で既に調査済の施設が含まれているため、今後診断箇所調整を行う。
- ・合併後の大きな課題であった水道料金の統一ができた。
- ・「人口減少地域における消火施設のあり方の検討」、「水道への切替えの推進」に関しては、未着手であるため作業の早期着手を図る。

(4) 信頼

- ・既に水道は普及浸透しているため、利用に関する要望は多く寄せられないが、水道に対するニーズ等の把握のためアンケートを実施しサービス向上を図る。
- ・水質検査結果や水道事業会計の財務状況など情報発信はしているが、より水道の大切さを理解してもらうために利用者とのコミュニケーションの充実を図る。

水道ビジョン点検・評価シート

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ビジョン	主要施策	実現方策 (計画期間)	最終目標値	R1までの 実績率	令和2年度					コメント欄	
						単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率		評価
安全 いつ飲んでも安全な水道	34	水源から蛇口 までの徹底した 水質管理	1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携 (H29～ R8)	—	—	①水質検査の公表を毎月更新で実施 ②水質異常の際は関係機関へ即座に水質検査の実施を依頼 ③畑作地帯の水源水質結果の推移を確認	①毎月実施できた。 ②関係機関との連携は問題なく実施できた。 ③水質検査の結果、数値はすべて基準値以内であった。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>水質検査により水道の安全性を確認できた。</p> <p>課題</p> <p>特になし。</p> <p>今後の方向性</p> <p>引き続き水質検査結果の推移を確認していく。</p>
			2 水安全計画の策定 (H30～ R元)	100%	100%	水安全計画を策定する。また、災害時に関係者が水道施設の各システムを操作できるように操作マニュアルを作成する。	各配水系毎に水安全計画を策定した。主要施設の機器操作マニュアルを作成した。	進捗率 100%	—	100%	A	<p>成果</p> <p>成果は今後確認していく予定。</p> <p>課題</p> <p>職員の異動や組織体制の変更によりマニュアルが現状と合わなくなっていく可能性がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>定期的に妥当性の確認を行い、必要に応じて見直す。</p>
			3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成 (H30～ R元)	100%	100%	水安全計画を策定する。また、災害時に関係者が水道施設の各システムを操作できるように操作マニュアルを作成する。	各配水系毎に水安全計画を策定した。主要施設の機器操作マニュアルを作成した。	進捗率 100%	—	100%	A	<p>成果</p> <p>成果は今後確認していく予定。</p> <p>課題</p> <p>職員の異動や組織体制の変更によりマニュアルが現状と合わなくなっていく可能性がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>定期的に妥当性の確認を行ない、必要に応じて見直す。</p>
			4 水道管内の点検と洗浄 (H29～ R8)	—	—	豊科地域でカメラ調査業務と洗管業務を行う。	11箇所カメラ調査を行い、比較的付着物や堆積物の多かった2路線について洗管を行った。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>配水管内の洗浄を行い、付着物や堆積物の除去ができた。</p> <p>課題</p> <p>場所によって断水が難しかったり、仮設の費用が大きくなってしまふ。</p> <p>今後の方向性</p> <p>濁りの問題以外の、水質の苦情があるような系統の調査や洗管についても検討をしていく。</p>
			5 濁度計の設置 (H30～ R8)	100%	40%	豊里第2水源に1基設置	豊里第2水源と明科第2水源に設置	整備率 55.75%	50%	90%	B	<p>成果</p> <p>三郷上長尾配水池系統、上原配水池系統及び豊里配水池系統に対しては濁度対策が進んだ。</p> <p>課題</p> <p>設置費用が高額のため、中長期的な設置計画の見直しを要す。</p> <p>今後の方向性</p> <p>設置箇所の見直しを検討する。</p>

基本目標	ペー ジ ン	主要施策	実現方策 (計画期間)	最 終 目 標 値	R1までの 実績率	令和2年度					コメント欄	
						単年度目標	単年度実績	年 次 目 標 値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率		評価
強 靱 災 害 に 強 く し な や か な 水 道	39	災害に強い施設 の整備	1 指定避難所等重要給 水施設への給水ルー トの耐震化 (H30～ R 8)	71.8%	32.1%	主要管路整備 豊科・三郷・穂高 L=1179.7m	主要管路整備 豊科 L=320.6m 穂高 L=1,176.5m 計L=1,497.1m (1.5m) 当初耐震化率22.5% 6.2km (H30～R2) 14.6km (整備前) 64.7km (目標値)	38.93%	33.1%	85%	B	成 果 水源から拠点配水池に接続している導水管、災害時の避難所や病院等の 重要給水施設と拠点配水池を結ぶ給水ルート耐震化を、計画どおり進 めることができた。 課 題 穂高地域の配水管による給水ルート工事へ着手し、市街地での施工へ と移行するため、綿密な工事施工計画が必要となる。三郷地域も継続的 に次年度の計画を進める。 今後の方向性 予定どおり順次耐震化を進めていく。
			2 非常用電源設備の整備 (R 5～ R 8)			令和5年度：上原・豊里、令和6年度：川西、令和8年度：上長尾・宮城・堀金						
			3 他水源からの配水が 可能となる施設整備 (豊科・明科地域整 備事業分 H29～ R 2)			送配水管布設工事 L=1,570m見込み 豊科・明科地区12～14工区3 件の着手及び、第2水源改修 工事を継続し施工する。	送配水管布設工事の実施。 L=1,570m 第2水源改修工事は繰越事業となっ たことから、昨年度に引き続き施 工を行う。	定量的な 評価が 困難な 項 目	-	-	A	成 果 当初計画どおり、12、13、14工区の布設工事が終了。第2水源改修工事も 終了し、全体事業が完了となる。 課 題 - 今後の方向性 明科潮沢系配水施設整備事業に関しては再検討を含め、令和3年度から の計画を令和5年度へと変更したい。
39	危機管理体制 の充実強化	4 防災訓練の実施 (H29～ R 8) *経営管理課	10回	2回	最低年1回は実施。	コロナ禍であるため、実施せず。					C	成 果 課 題 今後の方向性 令和3年度に実施予定。但し、関係機関の参加は依頼せず、今一度、災 害発生時に何をしなくてはならないか実践的に検証していく。
		5 震災等を想定した災 害対策マニュアル (R元) 経営管理課		100% ※毎年度確 認し、必要 により改訂 予定	100%	-	令和元年度に策定済。		進捗率 100%	100%	100%	A

基本目標	ペー ジ ン	主要施策	実現方策 (計画期間)	最 終 目標値	R1までの 実績率	令和2年度					コメント欄	
						単年度目標	単年度実績	年 次 目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率		評価
持続 いつまでも地域にあり続ける水道 1 / 2	42	計画的な施設更新と規模の適正化	1 老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施 (H29～R 8)	85.4%	81.1%	配水管（老朽）布設替工事 路線L=5,119m見込。	21路線L=5,352.5m実施。予定箇所 の精算により実施。	有収率 80.86%	80.10%	99%	A	成 果 当初見込みの配水管布設替予定箇所の実施と延長の精査により、緊急性の高い漏水多発箇所の対応が迅速に行うことができた。
			穂高塚原配水系の漏水調査を実施	配水管延べ52km及び給水管の配水管 漏水調査実施 計13箇所の漏水確認後、全て漏水 修繕を実施	課 題 老朽管の計画的な布設替は重要だが、他の事業と並行して実施していく ので、施工延長を伸ばすことが難しい。漏水調査は、漏水発生箇所を中心 に進めていくが調査範囲の絞り込みが容易でない。	今後の方向性 今後も漏水調査と老朽管の布設替を並行実施し、有収率の向上を図る。						
			2 水源施設の老朽化診断 (H29～R 4)	100%	35.7%	早めに確認が必要な井戸2箇所 の調査を行う。	久保田水源地と野沢水源地の2箇所 で調査を行った。	調査率 78.4%	50.0%	64%	B	成 果 データの無かった野沢水源地を調査し、現状を把握できた。久保田水源地 は当面改修の必要はないことが確認できた。
			課 題 水源が少ない配水系の場合、数日間井戸を停止してのカメラ調査ができ ない。	今後の方向性 H24に調査済みの井戸や耐用年数に達していない井戸が対象となっている ため、再度調査箇所を検討し、可能な施設から診断を行う。								
			3 アセットマネジメントの実践 (H29～R 8)	—	—	①布設（替）するすべての鑄鉄管にポリスリーブ巻を行う。 ②更新については、設備投資計画及び目標値を設定し更新する。	①布設（替）するすべての鑄鉄管にポリスリーブ巻を施工。 ②設備投資計画及び目標値に基づき翌年度の実施計画を策定済み。	定量的な 評価が 困難な 項 目	—	—	A	成 果 ポリスリーブ巻は鑄鉄管すべてにおいて実施。投資計画に基づく次年度 施工予定箇所については、事前設計を行い効率的に発注し施工できた。
課 題 実施計画による工事発注をする中で、漏水事案等による突発的な施工順 位の変更への対応が容易でない。	今後の方向性 投資計画に基づく実施計画を進め効率的に老朽管の更新を進める。											
4 施設の統廃合やダウンサイジングの検討 (豊科・明科地域整備事業分 H29～R 2)	—	—	令和2年度が豊科・明科地域整備事業の整備計画最終年となること から、完成を目指す。	令和2年度に豊科・明科地域整備事業の整備が完了となる。	定量的な 評価が 困難な 項 目	—	—	—	成 果 豊科・明科地域整備事業を（H29～R 2）計画を行い令和2年度に事業 完了となった。			
課 題 —	今後の方向性 明科潮沢系配水施設整備事業に関しては再検討を含め、令和3年度から の計画を令和5年度へと変更したい。											
5 人口減少地域における消火施設の在り方の検討 (H29～R 3)	—	—	地域住民と防災担当と協議体制の構築。	未実施	定量的な 評価が 困難な 項 目	—	0%	C	成 果 —			
課 題 防火水槽の設置には、広い土地が必要になり設置が難しい。	今後の方向性 地域住民と市の防災担当（危機管理課）と協議し必要箇所があれば対応 していく。											

水道ビジョン点検・評価シート

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ページ	主要施策	実現方策 (計画期間)	最終目標値	R1までの 実績率	令和元年度					コメント欄	
						単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率		評価
持続 いつまでも地域にあり続ける水道 2 / 2	42	経営基盤の強化	6 水道料金水準の適正化の検討 (H29～R8) 経営管理課	100%	100%	—	令和元年度10月、料金改定により市内統一の料金とした。	定量的な評価が困難な項目	—	100%	A	<p>成果</p> <p>各地域で金額が上がった下がったということがあったが、特に混乱もなかった。</p> <p>課題</p> <p>今後の方向性</p> <p>何年か後には料金改定が必要になる可能性はあるが、今後の給水量の減少を考える中、経営状態に影響のないような検討が必要。</p>
			7 水道への切替えの推進 (H29～R8) 未普及地域への対応	—	—	—	水道普及率が水道ビジョン策定時に99.3%と高数値であり、ほぼ普及している状況であるため、接続要望相談の際は個別に対応を行う。併せ、水質検査結果を市ホームページで公開。	定量的な評価が困難な項目	—	—		<p>成果</p> <p>—</p> <p>課題</p> <p>—</p> <p>今後の方向性</p> <p>—</p>
信頼 皆様に信頼され、共に つくる水道	44	利用者とのコミュニケーションの充実	1 情報公開の充実 (H29～R8)	—	—	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新する。	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新した。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>水質状況や経営状況を的確に発信できた。</p> <p>課題</p> <p>よりわかりやすい広報のため、内容の充実が必要。</p> <p>今後の方向性</p> <p>水質検査、経理関係の情報公開は継続して実施を行う。子供向けコンテンツの充実を図る。</p>
			2 施設見学会の実施 (H29～R8)	—	—	公開講座、地域からの要望により施設見学会を開催する。(年1回)	小学生を対象に施設見学会を実施し、水の大切さや市の水道状況について説明した。また、5月に豊科細萱地区で「水道出前講座」を開催した。					定量的な評価が困難な項目
			3 水道利用者のニーズの把握 (H29～R8)	—	—	市民意識調査に「水道について」の設問内容を加えて、年度末までにアンケート調査を実施する。	令和2年度3月に市民意識調査を実施した。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>「水道水について」5項目の質問についてアンケートを実施しました。</p> <p>課題</p> <p>市民意識調査に合わせての実施になるので、設問数が限られる。設問内容の優先順位もよく検討したい。</p> <p>今後の方向性</p> <p>今後も市民意識調査に合わせて実施していきたい。</p>

令和2年度 水道事業会計の財政計画と決算比較表

単位:千円、税抜

収益的収支		財政計画 A	R2決算額 B	比較 B-A	説明
収入	1 営業収益	1,875,357	1,765,493	▲ 109,864	
	うち給水収益	1,726,769	1,604,800	▲ 121,969	新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済支援のため基本料金減免による収益の減
	2 営業外収益	284,288	402,206	117,918	新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済支援のため基本料金減免による収益減に対する補助分の増
	うち長期前受金戻入	275,165	276,304	1,139	
	3 特別利益	0	0	0	
収入計 ①		2,159,645	2,167,699	8,054	
支出	1 営業費用	1,658,664	1,615,097	▲ 43,567	動力費等の削減のため減
	うち減価償却費	1,067,190	1,048,202	▲ 18,988	工事請負費等の削減のため減
	2 営業外費用	128,309	121,924	▲ 6,385	
	うち支払利息	125,332	120,284	▲ 5,048	企業債利息
	支出計 ②	1,786,973	1,737,021	▲ 49,952	
経常損益 ①-②		372,672	430,678	58,006	

単位:千円、税込

資本的収支		財政計画 A	R2決算額 B	比較 B-A	説明
収入	1 企業債	100,000	83,000	▲ 17,000	起債対象事業の減
	2 他会計出資金	121,000	73,900	▲ 47,100	令和2年度計画分事業の令和元年度前倒しによる減
	3 補助金	75,000	24,275	▲ 50,725	補助対象事業の減
	4 工事負担金	28,965	36,111	7,146	
	5 その他(分担金)	42,638	40,738	▲ 1,900	
収入計 ①		367,603	258,024	▲ 109,579	
支出	1 建設改良費	1,210,521	1,186,904	▲ 23,617	令和2年度計画分事業の令和元年度前倒しによる減
	2 企業債償還金	588,156	587,015	▲ 1,141	
	支出計 ②	1,798,677	1,773,919	▲ 24,758	
資本的収入が支出に不足額 ①-②		▲ 1,431,074	▲ 1,515,895	▲ 84,821	
補填	補填財源(損益勘定留保資金)	996,051	1,062,765	66,714	
	補填財源(建設改良積立金)	350,000	350,000	0	
	補填財源(消費税調整額)	85,023	103,130	18,107	
	計	1,431,074	1,515,895	84,821	
年度末補填財源残高		1,953,764	2,957,773	1,004,009	
企業債残高		5,742,171	5,621,639	▲ 120,532	

※水道ビジョン掲載ページ 52ページ